

第2回 富田林市観光ビジョン策定委員会議事録

●開催日時:令和 8 年 2 月 16 日(月)午後 2 時～午後 3 時 30 分

●開催場所:すばるホール4階会議室(旧秀月の間)

●議事次第

・報告事項

- ① 実施計画における数値目標の進捗報告
- ② 次期観光ビジョン策定に向けた予算・スケジュールについて
- ③ 委員委嘱の任期について

●議題

- ① 次期観光ビジョン策定に向けた事務局整理について
- ② 次期観光ビジョンの要素として取り入れるべきもの
- ③ 調査手法や統計分析について
- ④その他

事務局

只今より、令和 7 年度第 2 回富田林市観光ビジョン策定委員会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、商工観光課の柏木でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日、富田林商工会 寺内委員、亀の井ホテル富田林 藤原委員、南海電気鉄道
有村委員の 3 名はご欠席のご連絡をいただいております。

それでは、本日の会議開催に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

資料は、次第、資料 1-1 実施計画の項目一覧、資料 1-2 実施計画数値目標の進捗状況、資料 1-3 次期観光ビジョン策定の考え方、の 4 点でございます。以上、そろっておりますでしょうか。

次に、会議の公開につきましては、令和 6 年度第 1 回目の委員会の議事におきまして、
全て公開と決定させていただいております。

議事録につきましては事務局が作成後、会長にご報告のうえ Web サイト上で公開いたします。なお、議事録作成のため、会議を録音させていただきますのでご了承をお願いいたします。

また、本委員会の傍聴についてですが、同じく令和 6 年度第 1 回目の策定委員会で傍聴は 4 名までと決定されました。

本日傍聴者はおられませんので、このまま進めさせていただきます。

本日は、委員定数 8 名中、5 名の出席がございますので、富田林市観光ビジョン策定委員会設置要綱第 6 条第 2 項に基づき、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

す。

次に、本日の予定でございますが、次第の通り、まず報告事項といたしまして、観光ビジョン実施計画の進捗報告、次期観光ビジョン策定に向けた予算・スケジュールについて、委員委嘱の任期について、ご報告をいたします。

つぎに、議題につきまして、①次期観光ビジョン策定に向けた事務局整理について、②次期観光ビジョンの要素として取り入れるべきもの、③調査手法や統計分析について、それぞれ委員の皆様よりご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、要綱の第6条第1項に基づき、議事進行を和泉会長にお願いいたします。和泉会長、よろしくお願いいたします。

会長

委員の皆様本日はご多忙の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

第2回目の富田林観光ビジョン会議を始めさせていただきます。

先ほど、事務局の柏木様からご説明あった通りまず、報告事項につきまして、事務局より報告をお願いいたします。3項目分ございますのでまとめてご報告をお願いいたします。

それでは事務局様、よろしくお願いいたします。

事務局

① 観光ビジョン実施計画の進捗報告につきまして（資料1-1）

事前に資料送付済みですが、令和7年度の実績を共有しております。御覧の通り、数値目標を追加した項目について、令和7年度の現時点での実績を共有いたします。今年度に目標を達成した項目がある一方、進んでいない項目もございますので、引き続き令和8年度には目標を達成できるように努めてまいります。

② 次期観光ビジョン策定に向けた予算・スケジュールについて

先日令和8年度の予算内示がございまして、観光ビジョン策定にかかる委託料につきまして、無事予算化されております。

今後のスケジュールとしましては、令和8年度5月GW明けに第1回委員会実施できればと考えております。11月までに策定できればと考えております。なお、委員会の開催回数は現時点で5回程度の実施を想定しておりますが、11月に策定、各回の論点などを整理したうえで、全体計画をお示しすることといたします。期間短い中で回数を重ねる形になるが、ご参加よろしく願いいたします。

③ 委員委嘱の任期につきまして

みなさまは、令和6年7月から2年間の任期として（令和8年6月まで）を委嘱期間とさせていただいております。来年度中に再度の委嘱のタイミングがございまして。

事務局といたしましては、議論継続性の観点から令和8年7月以降も可能な限り、現在ご出席をいただいております委員の皆様方に引き続き委嘱をお願いしたいと考えております。ただし、年度替わりも挟みますので、異動などによる任期途中の解嘱・委嘱も想定されますので、その際は事務局までご連絡をお願いいたします。以上でございます。

会長

ありがとうございました。事務局より報告事項の報告がございました。委員のみなさま、ご意見、ご質問などはございますでしょうか。

委員

数値目標について詳細は割愛されていたが、数値目標について令和7,8年度の2カ年ともに記載の目標はすでに決定事項だったという認識でしょうか。

事務局

数値目標を設定するということは会議にて了承いただいております。令和6年度に途中経過を鑑みて実際の数値目標を会長と相談の上設定いたしました。

委員

本日の議題である次期観光ビジョンの策定に関して、本来であれば現状の数値目標や達成状況の検証この場で議論されるべきではと考えておりました。例えば戦略Ⅰの食を活用した魅力の向上についてInstagramの店舗宣伝数の目標値 10 件に対して実績 25 件だが、宣伝することが目的ではなく、いかに誘客につながるかというところが重要で宣伝はあくまで手段ですが、こういったことも踏まえて次年度は目標値 10 件とすることは正しいのかと。戦略2についてInstagram のフォロワー数の目標設定について、現状値が 3844 人にもかかわらず、次年度目標が 3000 人となっています。このあたりの数値を精査しないと、次期ビジョンの策定にあたって、目標値も重要であるので、現状数値の報告やポイントを述べて進めていくべきではないでしょうか。

事務局

ご意見ありがとうございます。

会長

各委員の意見を頂戴しながら、指標の見直しも含めて議論してもいいのではないかと考えます。スケジュールについて5月～11月で5回程度という会議の開催という認識で問題ないのでしょうか。少しタイトなように感じます。

事務局

あくまで想定回数ではありますが、改めて年度計画等を示したうえでどの回で何を議論するかを検討したうえで回数については検討いたします。タイトであることは認識済みであるので、改めて報告します。

会長

承知しました。委員委嘱の任期は、報告事項で上がっているが、委員会での了承を得

る内容であると考えます。各委員の方々、先ほど事務局から報告があった通り引き続き継続していただけるということでご了承いただけますでしょうか。

各委員

(全員了承)

会長

では報告事項については以上とします。続いて、議題に移りたいと思います。まず、議題①次期観光ビジョン策定に向けた事務局整理について、事務局より説明をお願いします。

事務局

ではご説明をいたします。次期観光ビジョン策定の考え方(事務局整理)について、資料1-3の通りまとめております。

まず方針としましては、第1幕から第3幕、および第5幕につきましては、現在の観光ビジョンの基本的な構成は踏襲しつつ、経年に応じた文言、数値、表現の更新を行いたいと考えております。また、第4幕につきましては、表題は維持しつつ、内容の見直しを図りたいと考えております。

順を追って具体的に申し上げますと、

まず、第1幕「富田林市の観光振興についての考え方」につきましては、現在の観光ビジョンを策定した当時から、本市における観光の考え方については変わっていないと考えておりますことから、大きく見直す必要はないと考えております。ですので、基本方針は維持しつつ、文言、数値、表現の更新を行いたいと考えております。

次に第2幕「富田林市の観光の「今」」につきましては、各種調査および分析手法に関する項目となっております。まず各種調査ですが、現在の観光ビジョンを策定するにあたり、統計・WEB・宿泊・関係団体ヒアリングといった調査を行っておりますが、次期観光

ビジョンでは調査内容や調査手法の更新が必要だと考えております。分析手法と併せまして、あとの議題でもご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に第3幕「重点的に取り組むこと」につきましては、「市として力を入れるべき3つの内容」は維持しつつ、文言、数値、表現の更新を行いたいと考えております。

次に第4幕「具体的に起こすアクション」につきまして、一昨年度よりみなさまにご議論をいただいていた項目となりますが、戦略1から戦略5について、表題（見出し）の内容は維持しつつ、その中身を見直していきたいと思っております。

具体的には、「取り組みの目的と5年後のめざす姿」および「各戦略を通してめざすこと」を見直します。また、それらを見直した結果を踏まえ、具体的な施策や数値目標を検討・設定します。

最後に第5幕「みんなで観光地域づくりを推進するための体制づくり」につきましては、特に変更すべき点はなく、現状のまま維持したいと考えております。

以上でございます。

和泉会長

ありがとうございました。時期観光ビジョン策定に向けた考え方について委員のみなさまよりご意見、ご質問等を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。要点として第一幕～五幕までに共通して基本的には踏襲という形で大きなフレームは維持しつつ数値やコンテンツなどの細かな内容について変えていきたいということが示されました。他の委員の方ご意見を頂戴できますでしょうか。

委員

昨年、関西万博が終了し、予算目標など金額面の話が当初は話題になっていたが、最終的に黒字だったと伺っている。富田林市としても市役所や観光協会が主体となって地方

自治体の PR を目的に出展し、職員の皆様も現場へ出向いていただいた。現地での評判は良かったと報告は受けているが、実際に PR した効果がどれくらい富田林市へ出ているかが気になっている。その後のじないまち四季物語実行委員会の主催のイベントでは数字面で万博効果が出ているとは言い難く、コロナ渦以前の水準へは戻っていませんし、万博の本市への影響は実感できていないというのが正直なところです。

会長

そのあたりのお話も含めて、本市の観光をコロナ渦以前の数値に戻すためにはどうすればいいのかも踏まえながら方向性・考え方に関して事務局には考えをいただきたいところです。

委員

現状のビジョンの方向性や進むべき道は誤っていないという認識でしょうか。とはいうものの分析方法の見直しなどは実施すると説明があったので、多少の軌道修正は必要というご認識なのでしょうか。

事務局

この観光ビジョンは本市が目指す理念を体現したものとなっており、その方向性については一定この方向で問題ない認識ですが、万博やコロナ渦などの社会情勢の変化に対応するため、本市としてできることを各委員のお力も借りながら考えていきたいと思っています。

委員

基本的な方向性としては市民の方があまねく、参画する観光事業によって市が発展するというとらえ方でしょうか。

事務局

考え方に変更はなく、方向性としてで良いと考えている。

委員

だとすれば、結果的にどのような数値目標や観光地としての姿となるのか現状の観光ビジョンの中では見えてこない気がしています。

会長

どういう姿を目指しているのかを共有できるような計画を策定していく必要がありますので、その点を意識して作業を進めていただければと思います。

委員

フレームを作る必要がある。インナー向けなのかアウター向けなのかはさておいて、例えばスローガンが「とんだばやしを楽しもう」とあったときに、自然・食・農・歴史・をたのしもうなどフレームが出来上がっていく。市側も市民側も1つのフレームでまとまると理解が進みやすいのではないかと。企業におけるステートメントのように簡単な言葉で伝えてあげることが必要なのではないかと。分析についてはあくまで環境分析であるので、別途消費者構造の分析が必要、あいさつやハニカム理論なども加えるとフレームのサポートになるのではないかと。フレームというかコンセプトを作ることが重要。

事務局

現状のビジョンの中でもコンセプトは示している認識です。そのコンセプトをもとに様々な施策を5年計画で実施しているのが現行のビジョンと認識しております。ご指摘の通り、よりわかりやすくする必要があるならより分かりやすいものに修正していくことを考えていきたい。

和泉会長

本ビジョンの改訂にあたって、コンサルタントは導入予定でしょうか。

事務局

導入方針です。

委員

ビジョンを新しくするのであれば、やはり今までの総括をしてから検討する必要がある。現行のビジョンへの理解や分析が不十分な状態では次のステップに進めません。例えば今年度までは大阪関西万博に向けて様々な施策を実施してきたと思いますが、万博が終わった次年度以降何をしていくか検討しなければならないフェーズであり、他の市町村も含めてギアも上げて検討していく必要があると考えています。もちろん数値目標の刷新等も大事だが、他の市町村ではすでにこれまでの取り組みを総括・検証してアフター万博の取り組みを進めているところもあります。そんな中で議論の中に総括や人数ベースや満足度などの数値検証も入っておらずビジョンを改定するにあたって判断材料がなさすぎると感じています。いったん現状の目標と数値目標および実績の整合性を見る必要があり、それを事前に説明いただいたうえで議論に入るべきです。ビジョンはわかりやすくしてしかるべきであるが、ビジョン改定の議論の元として先ほど述べたような判断材料が必要であるべきと考えますが、いかがでしょうか。

事務局

総括という面では先ほどもご意見いただいた通り説明が少なかったと考えております。数値目標については大きく超えているものもあれば、達成できていないものもございます。達成できた数値も現状の目標値の修正が必要なことは認識しており、本市としてビジョンに示しているような進むべき方向性は現行の基本方針として進んでいきたいと考えております。目標を達成できていないという現状もありますので、どうやれば達成できるのか落とし込むような議論をしていきたいと思っております。現行の数値目標で6年実施してきて目標値に近づいているかを考えるときに、数値目標自体もあいまいな面がありましたので、そういった面も含めて次のビジョンではもう少し達成状況が分かりやすいものにしていきたいという思いもございます。

和泉会長

もう少し簡単に考えて過去のコンテンツを振り返り、今まで以上に評価すべきところは評価し、枝葉を広げるという方向性で考えること、達成できなかったものはなぜ達成でき

なかったかを考えること、少し先の予測の中で、何をしていくことが必要なのかを考えることの3つの柱で考えていくべきだと思いました。議論するにはデータが不足している点と総括（振り返り）部分が見えていない現状がありますので、次回委員会では事務局に工夫をお願いいたします。

委員

各委員のご意見を聞いたうえで、現状の分析や社会情勢や過去の実績、総括が記載され、根拠も含めてどういう戦略を目指すのかが記載された一枚物の戦略図等があればわかりやすいと思います。前回の踏襲ということでこういう資料となっているとは思いますが、前回参加していない身からすると上記のようなものが欲しいです。スケジュールについてはあらかじめ回数を制定するのではなく、どこまでに何を決めるか等を決めると議論が深まりやすいと思いますがいかがでしょうか。

会長

スケジュールについては同意見ですので、事務局にはそのような対応をお願いできればと思います。委員の皆様から出た意見を前向きにとらえ、次回以降の対応をお願いいたします。

委員

KPI を立てた際の数値検証はもちろん重要だが、消費者側の視点（分析）を入れると感情も入れたほうがいいのではないかと。シェア&サーチのところは現状見えない。数値ではない目標設定も重要。数値ではない人の感情を入れていくことも重要視してほしい。デジタル時代の中でハニカム理論等を活用してフレームにはめていければいいのではないかと。

会長

続きまして、②次期観光ビジョンの要素として取り入れるべきもの、につきまして、事務局より説明となりますが、各委員の意見も反映して②も修正が必要と考える。いったん現行の

説明をお願いします。

事務局

様々なご意見を頂戴しありがとうございます。考え方については観光ビジョンの方向性として具体的戦略の記載があるところをより具体化していくところが必要と考え、第4幕というところを強調しております。時期観光ビジョンに取り入れる要素として、来年度の第1回目の会議にて振り返り報告等は実施予定だが、まだ集計中というところもあるので現時点での進捗報告というところにさせていただきます。

次期観光ビジョンの要素として取り入れるべきものとしたしましては、第4幕に入れる要素につきまして、ご意見を頂戴いたしたく思っております。

令和6年度からの委員会の中で、

- ・具体的な情報発信方法、戦略、ツールなどを追加すること
- ・外国人をターゲットとした施策を追加すること
- ・テーマやストーリーなどの具体性を持たせること
- ・アフター万博における施策を追加すること
- ・数値目標を取り入れること

というご意見を頂戴しております。

具体的な取り組みや事業内容につきましては、来年度の委員会でのご議論後を経て決定することとなりますが、今回は先ほど申しあげたご意見以外にも、追加で取り入れるべき要素などがありましたら、ご意見を頂戴出来たらと思っております。

会長

ありがとうございました。先ほどより私も含めて各委員より振り返りがないため、意見しづらいという意見を頂戴しておりますが、先ほどの事務局の説明で振り返りは第1回の中で振り返るとの事でした。実際の要素について意見は難しいと思いますので、皆様のお立場に置かれまして、最近のトレンドや観光の現状や話題になっていることなら過去の振り返りがなくとも意見できるかと思うのでご意見を頂戴したい

委員

大阪観光局として万博について来場人数や黒字化したことは成功点としてとらえているが、反省点として万博来場者の大阪市域外への回遊がどれだけできたか考えると道半ばだった。なぜそうなのか考えると、本ビジョンを見てもそうだが、富田林市がすべてという視点ではなくてももう少しエリア（南河内地域など）で考える必要がある。先日羽曳野観光局の理事会に参加したが、観光局を立ち上げられて南河内のハブになって羽曳野市だけではなく近隣の市町である富田林市、河内長野市、柏原市などもPRしようという考えもある。理事会時にも富田林市と一緒に活動していくのはどうかと聞いたところ是非ということだった。したがって要素として何か付け足すのならば、広域にまたがった中で富田林として何ができるかという視点も必要なのではないか。

委員

万博の話が先ほどから出ているが、当社（近畿日本鉄道）の中での万博の効果をお伝えすると、思っている以上に近鉄電車に乗られた方が多かった。予想や予算を上回る結果となった。一方で目標として掲げていた万博に来られた方を沿線への呼び込むという点については成功と言えなかった。万博に来場しても万博近辺の大阪市域で観光するケースが多かった。ただし例外として万博とともに訪れられた観光地の一位は奈良公園であったことはわかっている。要因としては弊社側の努力というより奈良市が万博会場に近い中では魅力的な観光地だったということであったが、結果的にはこれも成功事例となった。現状の取り組みとして、万博が終わってもまだ関西圏には注目の目が向けれていると考えており、主力ターゲットである関西圏、中部圏、首都圏以外に対しても広告宣伝を行い、弊社の沿線の良さを伝えていこうと考えている。注目がいつまで続くかと考えるとそこまで長くはない認識ではある。

話としては少し離れるが、今年および来年度、関西圏で最も注目されるエリアは奈良県ではないかと弊社は考えている。理由として 7 月に明日香村・藤原京が世界遺産に登録される可能性がある点灯、現在放送中の大河ドラマの主人公である豊臣秀長が大和郡山にゆかりがあるという点がある。そういったことを考えたときに、広域で見ると同じ近畿圏に奈良という魅力的な地域があり、弊社の線路でもつながっている。上記のような地名

の注目度は高いのでそういった地域と絡めながらの観光も一つ検討してみてもよいのではないか。

インバウンドに話を移すと中国人観光客が昨今の状況で半減しているが、一方でアメリカ人観光客が急増している。現状恐らく香港を抜いて 4 番目まで上昇している。アメリカからの観光客は滞在期間が長く、滞在時間が長いとゴールデンルートから外れることも多くなると予想し、弊社としてはそういった層を取り込み、大阪から奈良・伊勢志摩へどうやって運ぶかということも考えている。

観光ビジョンの要素とは、すごく広いがどの部分を求められているのか。戦略を求めているのか、個別事業で何をすべきかの意見を求めているのか。

事務局

ご意見ありがとうございます。

様々なビジョンの決め事は来年度に決定するが、それにあたってその前に委員の皆様から例えば塩見委員がおっしゃった広域の視点や佃委員おっしゃったインバウンドの視点などそういったことが事案にあたる。以前からの委員会でも議論いただいている内容だが、変更するところという戦略4の広域観光・国際観光の推進とあるが、それも含めて戦略1～5について具体的に何をするのか、何を目指すのかが見えていない部分があり、本ビジョンの改訂にあたってはそれらを具体化させたい。

目標設定やどういったことで達成となるのかが見えにくいという現状があり、現行ビジョンでも数値目標があるが後付けで設定していることもあり、わかりにくいということがある。

評価軸がないと評価がしづらいということもあって、目標設定した。次回の観光ビジョンでは具体性を持たせつつ、どういった内容を達成するとビジョン内の目標達成となるのかの両方を考えていきたい。

そういった意味で例えば現状欧米豪をメインターゲットとし、1 day のショートトリップ需要を取り込みたいと漠然と考えているが、現状のビジョンの中にそういった要素は取り込めていない。ビジョンが作られてから令和 7 年度に至るまでですべて説明はできていないが様々な実施した取り組みもある。そういった市として取り組んできた内容や本会議で議題に上がったことも踏まえて、具体化・数値目標化したいと考えている中で具体的な施策や要

素に関する意見を頂戴したいと考えている。

委員

理解した。

現状のビジョンの戦略1～5は維持しつつ戦略1～5の中で、具体的な施策、イベント、旅行商品を新たに考え付加するべきという考えか。現行の観光ビジョンを踏襲するということなので走りながらになる。走りながら考えているので混乱が生じている。いったい今何を決めるにかかっているかがよくわからなくなっている。

事務局

表題・大枠自体は変えるつもりはない。具体的な中身・目的・5年後の目指す姿を見直したい。前は初めての観光ビジョンであり戦略・方向性を決めるということを重視した。現状、戦略から具体的に実装していくということができていない。やりたいことの具現化ができていない。そういった内容に資する要素を各委員様のお立場でご意見いただくとより深まる。理想の抽象的なものではなく具体的なものにしていけるのではないかという意味で戦略を達成するための要素（テーマ・ストーリー・ターゲット等）をいただければとの考え。

委員

前回の戦略に基づいて、事業内容・目標指数についても後付けとのことだが曲がりなりにも具体的施策が挙がっている中で新たにということなので、先ほどからも上がっている通り、本戦略を立てた際と比べて社会情勢も変化していて、観光の事情がどう変わり、インバウンドの質がどう変化したかなどを踏まえて、その変化に応じて戦略はそのままに施策を変えろという理解でよいと確認した。

事務局

今回の改訂にあたって議論より前に、ビジョンの中で具体的な目標設定が分かりにくいという声を多数いただいていた。数値目標について5年前には取得できなかったデータ等もとれるようになっているので、そういった社会情勢の変化も反映させたい。5年後に達成

可能な目標を呼び込めて、その中で数値目標が策定されてくるというのが理想であるが、現行のビジョンでは曖昧になっている中で、数値目標があるという乖離があり、以前より本会議の場でも方向性が見えないというご意見が多数あったという認識

委員

戦略 1～5は基本的に踏襲するという認識で理解はしたが、例えば周遊促進のための観光ガイドの配布数や体験観光コンテンツの数、宣伝数などについて目標に対して現状の数値は追えている形になっているが、これらを実現すれば観光ビジョンに書かれているような経済効果を実現するなどの目に見えて目標達成につながっているのかがしっかりと測れているのが重要。

上記のような数値を増やして経済効果としてどのようにつながったか可視化できるようになっていけばよいが、なっていないのであればこの数値目標を設定したところで意味があるのかという話になる。

上記はあくまで手段であり、実際の結果につながっていないということになる。コンテンツを作ることが目標になってしまっているのではないか。コンテンツを作ることは目的があつてあくまで手段としてつくるというもの、現行のビジョンはそれができていないのが課題ではないかと感じる。

例えば受け入れ態勢の拡大の項目の中で出前講座の開催や人材育成セミナーの開催との記載があるが、これらに対してどう向き合っていくかは大阪観光局としても課題であると認識している。現状途中にはなるがどちらも数値として0となっているが、これらを達成し、30名の人材を育成したと仮定して、その方々の活躍の場はあるのか等まで計算されていて記載があれば問題ないが、記載がなかったり、根本的に計算されていても自前でやったところで限界があるということもある。

戦略5の多様な主体との連携は戦略1から4と同列で記載されているが、すべての内容で多様な主体との連携は当たり前を実施する内容となっている。例えば近鉄は沿線を握っているので連携は当たり前。戦略5は1から4すべてにかかるようにするなど組み換えが必要ではないか。

自前ではできないので、できる自治体と組んで実施していくというフェーズに大阪観光局も含めて入ってきていると感じているのでそういう考え方も取り入れるべきだと考える。

事務局

ここに記載されている数値目標はあくまで末端の数値目標で、その数値目標が達成された際に、5 年後に違う指標で何が達成されているかが明らかでなく、あくまで手段であるにもかかわらず、実際の目標に同どうつながるかが見えていない。大きな目標に対して細分化した KPI をとっていくということが重要だと感じた。

会長

現状の意見を整理すると、何を達成するために何のコンテンツを実施するのが重要で目標とコンテンツを明確に紐づける必要がある。また、戦略はこのままでコンテンツを変えていきたいと事務局から説明があったが、どのようにコンテンツを変えるかには振り返りであったり、調査、社会情勢の変化などの情報が必要になってくる。

上記二つを整理するだけでも、かなりビジョンが分かりやすくなるのではないかな。

委員

基本的に入口か出口かの話だと思う。入口の話をしていただく。観光ビジョンについてはあくまで効果である。他の委員の方も同意見かと思うが骨を作ることが重要という認識。コンセプトがあって何かを達成する際に数値目標として経済効果やシティプライドの向上、人口が増えるなどにつながっていく。

私自身は広告屋なのでコンセプトから入ってしまうが他の委員の方々と同様に骨を作ってそれに数値に加えて感情を足していくと進めやすいのではないかな。

観光の考え方は面であり、私自身は富田林のブランドづくりや観光誘致であるのでないものをアピールしていくという形になるが、人や歴史や川などストーリーなどの側面で切っていくと、行政の壁はあると思うがうまくいくのではないかな。例えば次週に実施されるグレート・ミナミの会議などもそれに該当する。南大阪そして南河内がその面で遅れているのでそのあたりでうまくまとまればいいのではないかな。

会長

委員からご意見頂戴した南河内ないし広域という考え方は要素として取り入れる必要があるのではないかと考える。ちなみに奈良公園の人気についてはキャンペーン等を打ったりしたのか。

委員

特にキャンペーン等は打ち出ししていない。

そもそもの考え方としてインバウンドの観光客が奈良公園に集まりすぎているので近鉄として、そして自治体（奈良県）としても県内の北高南低を是正したいと考えている。自治体としては北から南に人の流れを作りたいと考えており、近鉄としてはさらにその先の三重まで人の流れを作りたいと考えている。

会長

余談だが、2 年契約で大和郡山市と大河ドラマ・世界遺産登録に起因して大和郡山市内城下町の商店街と様々な取り組みを実施中している。さらに世界遺産の藤原京域の北端は竹内街道を起点があり、南河内からも世界遺産にアプローチする方法はある。現状のトレンドなども少し意識すべきと考える。この辺りの情報も来年度の第 1 回目の会議でデータを振り返りながら確認できればと考える。

会長

続きまして、③調査手法や統計分析について、事務局より説明をお願いします。

事務局

ありがとうございます。

③調査手法や統計分析につきましては、本来であれば具体的な取り組み内容や事業内容、目標設定などがある程度固まってから検討・実施すべきものだと考えておりますが、スケジュールの都合上、来年度早々には調査を進めていきたいと思います。

また予算との兼ね合いもございますので、このタイミングでなかなか決められるものでは

ないことは重々承知しておりますが、効果的な調査手法や、近年用いられている分析手法などの知見をお持ちでしたら、ぜひこの場でご意見をいただければと思っております。
よろしくお願いいたします。

和泉会長

どんな調査手法や統計分析手法があるかというようなお話か。それとも、こんなデータが必要じゃないかということ知りたいのか。

事務局

後者の認識。現行のビジョンでいうと第2幕に記載あるような入れ込み客数、web調査、宿泊調査、関係団体ヒアリング調査などを実施しているが、例えば他自治体の事例では滞在時間や観光消費額、対面アンケートとして宿泊者調査やイベントに関する調査、市民アンケートの実施、商工関係の事業者ヒアリングなどが考えられる、データの側面とアンケート的側面でこういった数字を拾うといいのかについて、ご意見いただければ。

会長

各委員の皆様、こんなデータが富田林では必要もしくは他自治体での事例についてご意見や事例の共有をお願いしたい。

委員

大阪観光局でもマーケティングチームで様々な調査を実施しているが、調査手法や分析については骨太の方針があってその課題が見えない際に課題を解くために調査があるので、今調査のやり方を示したところで意味がないのではないかと感じる

富田林市の観光ビジョンに乗っ取って背景としての総括があって、例えば消費額が足りない、どこをターゲットにするかなどの課題が出た際に、現行の調査では課題解決が見えないとなった際に、それを埋めるためにこのような調査手法があるというように考えるべき。現行の調査手法が不明瞭なので軽々には言えないが、例えば富田林市を訪れる方他にどのような地区に行っているのかを探るとエリアとして考え方が重要だとの認識が持つこ

とができる。おそらくほぼ近鉄だとは思いますが、どんな交通手段を利用して訪れているのかを調べるとどの地域とセット訪れているかを探ることでストーリー作れるのではないかなど、目的があって手法論があるという風に考え方を整理しなければ、無駄打ちになってしまうことが懸念される。

事務局

来年度の第 1 回目の会議にて、振り返りをしたうえでどのような調査手法が必要かを検討する必要があるという理解でよろしいでしょうか。

委員

その理解で問題ありません。

事務局

例えば県外からの観光客数の数値を大阪府（大阪観光局）でとられているという現状はあたりすぎるのか。他府県ではそのようなデータが存在している。

塩見委員

国内は現状取得できていない。インバウンドについては関空出口調査にて取得している。

委員

他の委員と同意見にはなるが、何に対して調査で何に対して統計を取りたいのか。大きく分けて 2 軸あり、元のビジョンの成果を問うためのものか、これからのビジョンのための統計調査なのかによって大きく異なると思うがどちらに該当するのか。今までのお話を総合すると後者という認識になるが

事務局

振り返りをするためには令和 8 年度早々に 1 回目の会議をするにあたり、限られた予算の中で何らかの調査をすることは難しいという背景もあり後者という認識でいます。

委員

何を目指すかによって必要なデータが変わってくる。手法は目的ではないので、目的の部分が定まらないと手法が決まらない。

事務局

各委員のおっしゃる通り、どういう目標を立てるかによってどういう手法が必要になるかは変わってくるという認識。一方でそもそも現行ビジョンを策定した際の細かな指標について、来場者数はチラシ配布数から算出するなど非常にアナログな方法で取得している面もある。DMP など一定正確な数字を測れるようになってきているため、今までの指標も正確なものに変えて過去の数値を見たいという考えもある。現状の手法がかなり古いということもあり、振り返りもしながら比較する必要があると考える。

委員

振り返りという意味であれば、冒頭申し上げたビジョンとは何かというところに行きつく。ビジョンには住民の方のモチベーション・思いが大きく記載されていると思うので住民の声を聴くような調査手法をとるべきなのではないか。住み続けたい町や住みたい町と思うようになったかというのを調査して、市として目的を達成できたかの大きな指標となるのではないか。我々のような事業者は数値を追いにいくのでどのくらいの方が訪れというのが目標なので、その目標に向けてはこういうデータがないとこういう戦略をとるべきかわからないなど後ろから前に戻ってくるので、そもそも目標値がないと何を調べてよいかわからないと申し上げたのはそこにある。振り返る場合であれば目標（目標値）があるのでそれを確かめる手法をとるべきではないかと思う。

会長

次年度の第1回目の会議については振り返りが中心となるかと思う。今日の意見を参考に第一回目の会議の準備を進めていただければと思う。それでは最後に事務局から連絡事項などをお願いします。

事務局

本日は貴重なお時間ありがとうございました。次年度の第1回目の会議については振り返りから実施する。日程についてはGW明けとなるので、前もってからスケジュール調整をさせていただく。全体のスケジュールについては大枠をいったんこちらで決めて早い段階でアナウンスさせていただく。

会長

振り返りになるかと思うので、各委員の方々に早めに資料を送付いただければと思う。また、スケジュール感を明確に設定いただければと思う。では、以上をもちまして、令和7年度第2回富田林市観光ビジョン策定委員会を終了させていただきます。みなさま、ありがとうございました。